

畜産物を探知するためのにおいセンサーの開発

ポイント！

- **アフリカ豚熱をはじめとする家畜の伝染性疾病の国内への侵入を防止**するためには、**侵入のリスクとなる海外からの畜産物を効率的かつ効果的な検査により水際で摘発することが重要**であり、これまで動物検疫所では家畜防疫官の増員、動植物検疫探知犬の増頭や家畜伝染病予防法の改正により、水際検疫体制の強化に努めてきた。
- しかし、畜産物の不正持ち込みは後を絶たず、これに対処するためには**多様な方法を整備しておく必要**がある。

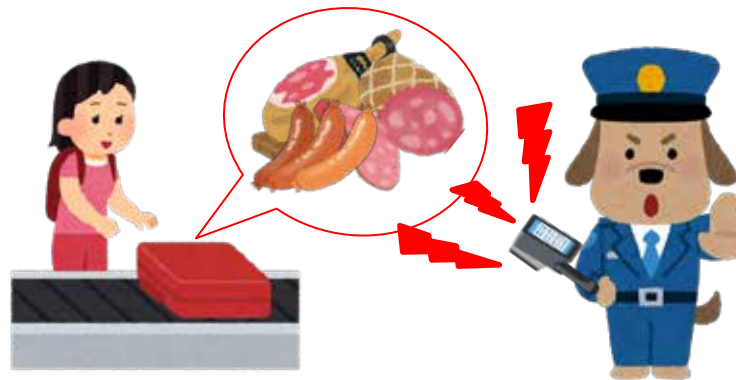
現状・課題

・ **アフリカ豚熱**については、**アジア13か国・地域にまで感染が拡大**しており、これらの国からの旅客が携行した違法な畜産物から、**アフリカ豚熱ウイルス等が分離された事例もあり、疾病侵入のリスクは依然として高い。**

・ 諸外国に対しては、日本への畜産物の持ち込みが禁止されている旨、現地語で広報を実施しているが、**申告せずに畜産物を不正に持ち込もうとする者が後を絶たない**ため、このような者を摘発し、不正持ち込みを防ぐための**より効率的かつ効果的な検査方法の開発**が必要。

必要な研究

肉製品のにおいパターンの判別とその評価
様々な分野で開発が進むにおいセンサーを用いて、ソーセージ、ハムなどの肉製品のにおいパターンの解析及び、容器中の肉製品のにおい判別が可能かを評価。



研究成果の活用

においセンサーが主要肉製品のにおいを探知可能であることが証明された場合には、本課題での知見を水際対策のより効率的な検査法の一つとなりうるにおい探知機の開発に活用する。

